MAGNIA 導入支援サービス編
システム構成ガイド

表示の希望小売価格は税別価格になります。
商品の価格には、据付調整費、使用済み商品のお引取り費は含まれておりません。
本製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず製品添付の取扱説明書をよくお読みください。

2015 年　7 月
Revision 4.7
株式会社東芝　インダストリアル ICT ソリューション社

目次

OS について

導入支援サービスがサポートする OS の種類については次のとおりです。

OS の種類	
2008R2	Windows Server® 2008 R2 (x64)
2012	Windows Server® 2012
2012R2	Windows Server® 2012 R2

導入支援サービスとは

導入支援サービスとは、IA サーバーを導入するお客様の作業時間短縮と導入費用削減を実現するサービスです。 お客様の指定する構成に設定して出荷する 2 種類のサービスを提供しています。

本サービスを利用するには、指定の「導入支援サービスツール」に希望の構成内容を入力し、発注時に「製造指示用ファイル」を提出していただく必要があります。

導入支援サービスツールの入力は、構成支援ツールの入力後に行います。

これまでの導入支援サービスは、構成設定シートへ機器設定を直接ご記入いただいており、想定されている機器構成が可能か否かを事前にご検討いただいている必要がありました。

今回より、構成支援ツールに設定いただいた機器情報から導入支援サービスツールに設定可能な項目を表示します。RAID 構成やディスクの混在などの条件を機械的に提示しますので、構成設定の入力時に構成の可否が明確になります。

導入支援サービスをご利用になるときは、当社担当営業までお問い合わせください。

RAID 設定カスタマイズサービス、カスタムインストールサービスの詳細を設定する「導入支援サービスツール」は、東芝ソリューション社内専用のツールです。

お客様がご覧いただくことはできません。

1 導入支援サービスの種類と内容

1.1 導入支援サービスについて

「導入支援サービス」はデフォルト設定や RAID セレクト 0/1/5 と異なる RAID を設定する場合に選択します。

次の 2 種類があります。詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

発注には「製造指示用ファイル」が必要です。注文書と合わせて提出してください。

・RAID 設定カスタマイズサービス（形番： ACR3774B）

製造指示用ファイルの内容に合わせて RAID の構築とシステムパーティション設定を行います。

※ システムパーティションの設定は、OS セレクト手配時のみ実施します。

・カスタムインストールサービス（形番： ACR3775B）

Windows をプレインストール出荷する際に、RAID の構築とシステムパーティション設定、Windows の設定、バンドルソフトの設定を製造指示用ファイルの内容に合わせて行います。

※ サーバー本体の仕様により、対応していない場合があります。詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

1.2 導入支援サービス以外のサービスについて

導入支援サービス以外にもサーバー出荷時に RAID 構成をする下記のサービスを用意しています。

これらのサービスでは対応できないようなときに、カスタムインストールサービスまたは RAID 設定カスタマイズサービスを選択してください。

詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

・無償の RAID 構築サービス（形番：なし）

デフォルト設定はサーバー本体やそのドライブ搭載台数、RAID コントローラーによって異なります。

詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

デフォルト構成以外の RAID を設定する場合は、RAID セレクト 0/1/5 を選択してください。

http://www.toshiba-sol.co.jp/pro/magnia/support/raid_cust/ss_raid.htm

・RAID セレクト 0（形番：ACR3771A）

接続された HDD すべてで RAID0 を構築します。最大で 8 台まで対応します。9 台目以降は RAID 構築しません。

・RAID セレクト 1（形番：ACR3772A）

2 台の HDD で RAID1 を構築します。残りは 8 台までスペア設定（ホットスペア）になります。9 台目以降は RAID 構築しません。

・RAID セレクト 5（形番：ACR3773A）

3 台の HDD で RAID5 を構築します。残りは 8 台までスペア設定（ホットスペア）になります。9 台目以降は RAID 構築しません。

※ オンボード RAID（ソフトウェア RAID）および RAID5 非対応の RAID コントローラ(512MB, RAID 0/1)[TN8103-172T] , RAID コントローラ(1GB, RAID 0/1)[TN8103-176T]では RAID セレクト 5 を選択できませんので、RAID5 対応の RAID コントローラーを手配してください。

補足事項

- RAID セレクトでは、異種ドライブの混在はできません。詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

1.3 サービスの範囲

導入支援サービスの設定範囲は以下の通りです。

設定項目	RAID 設定カスタマイズサービス	カスタムインストールサービス
RAID 構築	○	○
システムパーティション設定	○*1	○
OS セレクト I/J での インストール OS の選択	–	○
Windows の設定 -ネットワーク設定	–	○
バンドルソフトの設定 -ESMPRO/ServerAgent -RAID ユーティリティ など	–	○

*1：OS セレクトの Windows プレインストール時のみ実施します。

1.4 サービスの対象製品

○ ：選択可　－：選択不可

出荷形態 / サービス	Windows プレインストール（OS セレクトあり）	OS 無し（OS セレクトなし）
RAID 設定カスタマイズサービス	○	○*2
カスタムインストールサービス	○	–

*2：RAID 設定のみ。 システムパーティション設定は行いません。

1.5 メモリ仕様制限について

導入支援サービスでは、OS によって対応できるメモリ容量が異なります。

サポート OS	導入支援サービスで対応する メモリ容量*3
Windows Server 2008 R2 Standard	32GB
Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64)	*4
Windows Server 2012 Standard	*4
Windows Server 2012 Datacenter	*4
Windows Server 2012 R2 Standard	*4
Windows Server 2012 R2 Datacenter	*4

*3：サーバー本体のサポート OS および最大メモリ容量はサーバー本体のシステム構成ガイドやスペック表を参照してください。

*4：サーバー本体のサポートする最大容量を参照してください。

1.6 最小ブートパーティションサイズとメモリサイズ

最小ブートパーティションサイズは、サーバー本体に搭載するメモリサイズに応じて異なります。

-Windows Server 2008 R2

最小パーティションサイズ	搭載メモリ
40GB-100MB	4GB 以下
50GB-100MB	8GB 以下
60GB-100MB	12GB 以下
80GB-100MB	20GB 以下
100GB-100MB	28GB 以下
150GB-100MB	48GB 以下
200GB-100MB	68GB 以下
300GB-100MB	69GB 以上

Windows Server 2008 R2 のパーティションサイズは、システムパーティションサイズ(100MB)を引いた値となります。

-Windows Server 2012

MAGNIA R1310d/T1540d/T1340d/C1300d の場合

最小パーティションサイズ	搭載メモリ
40GB-350MB	3GB 以下
50GB-350MB	7GB 以下
60GB-350MB	11GB 以下
80GB-350MB	19GB 以下
100GB-350MB	27GB 以下
150GB-350MB	47GB 以下
200GB-350MB	67GB 以下
300GB-350MB	107GB 以下
600GB-350MB	108GB 以上

Windows Server 2012 のパーティションサイズは、システムパーティションサイズ（350MB）を引いた値となります。

MAGNIA D3305b/R3520c/R3510c/R3320d/R3310d/T3350d の場合

最小パーティションサイズ	搭載メモリ
40GB-688MB	3GB 以下
50GB-688MB	7GB 以下
60GB-688MB	11GB 以下
80GB-688MB	19GB 以下
100GB-688MB	27GB 以下
150GB-688MB	47GB 以下
200GB-688MB	67GB 以下
300GB-688MB	107GB 以下
600GB-688MB	108GB 以上

Windows Server 2012 のパーティションサイズは、回復パーティションサイズ(300MB), EFI システムパーティションサイズ(260MB)およびシステム予約済みパーティション(128MB)を引いた値となります。なお、システム予約済みパーティションは、ファイルサービスと記憶域サービスの管理コンソールには表示されません。

-Windows Server 2012 R2

MAGNIA R1310d/T1540d/T1340d/C1300d の場合

最小パーティションサイズ	搭載メモリ
40GB-350MB	4GB 以下
50GB-350MB	8GB 以下
60GB-350MB	12GB 以下
80GB-350MB	20GB 以下
100GB-350MB	28GB 以下
150GB-350MB	48GB 以下
200GB-350MB	68GB 以下
300GB-350MB	108GB 以下
600GB-350MB	228GB 以下
1TB-350MB	229GB 以上

Windows Server 2012 R2 のパーティションサイズは、システムパーティションサイズ（350MB）を引いた値となります。

MAGNIA D3305b/R3520c/R3510c/R3320d/R3310d/T3350d の場合

最小パーティションサイズ	搭載メモリ
40GB-688MB	4GB 以下
50GB-688MB	8GB 以下
60GB-688MB	12GB 以下
80GB-688MB	20GB 以下
100GB-688MB	28GB 以下
150GB-688MB	48GB 以下
200GB-688MB	68GB 以下
300GB-688MB	108GB 以下
600GB-688MB	228GB 以下
1TB-688MB	229GB 以上

Windows Server 2012 R2 のパーティションサイズは、回復パーティションサイズ(300MB), EFI システムパーティションサイズ(260MB)およびシステム予約済みパーティション(128MB)を引いた値となります。なお、システム予約済みパーティションは、ファイルサービスと記憶域サービスの管理コンソールには表示されません。

1.7 サービスの購入から納品までの流れ

本サービスの購入から出荷までの手順を示します。

構成支援ツールへの入力

↓

サーバー本体の構成を入力します。
構成支援ツール URL：
http://www.cn-d.toshiba.co.jp/MAGNIA/
この URL は東芝ソリューション社内専用のため、お客様はご覧になれません。
詳細は、当社担当営業へお問い合わせください。

導入支援サービスツールへの入力

↓

構成支援ツールの入力後に導入支援サービスツールを入力します。
導入支援サービスツールは、構成支援ツールに入力された構成に従って設定可能な項目を表示します。
導入支援サービスツールで設定ができない項目は、構成支援ツールの入力内容を確認してください。

構成シートの発行（発番・発注）

↓

製造指示用ファイルを発行します。
製造指示用ファイルと注文書を同時に提出してください。
製造指示用ファイルと注文書が揃っていない場合、ご希望の納期に沿えないことがあります。ご了承ください。

組立・インストール・出荷

↓

製造指示用ファイルの内容に応じて MAGNIA を設定・出荷します。

納品

補足事項

- 製造指示用ファイルは必ずサーバー本体の発注と同時に提出してください。
  製造指示用ファイルと注文書が揃っていない場合、ご希望の納期に沿えないことがあります。
  あらかじめご了承ください。

2 仕様

2.1 RAID 設定カスタマイズサービス

2.1.1 サービス形番と価格

サービス名称	形番	希望小売価格
RAID 設定カスタマイズサービス	ACR3774B	22,500 円

2.1.2 サービスの範囲（仕様）

本サービスで設定を指定できる項目は、構成支援ツールで設定した構成の範囲です。
希望される設定を導入支援サービスツールに入力してください。
本サービスを適用可能なハードウェア構成は以下の通りです。

磁気ディスク装置数	構成支援ツールに入力した数量までの設定ができます。 詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
RAID コントローラー数	1（2 枚目以降は設定不可）
ホットスペア指定	可
RAID レベル	0,1,5,6,10,50,60 HDD 台数のほか、機種および RAID コントローラーの種類により構築可能な RAID レベルが異なります。 詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
基本情報の設定	「OS セレクト」を手配したときのコンピューター名およびパスワードは固定です。 パスワードは据付後に変更してください。 　コンピューター名：MAGNIA 　パスワード　　：!Mag2A 設定したい場合は、「カスタムインストールサービス」を選択してください。
パーティション設定	「OSセレクト」を手配しない場合は、パーティション設定は行われません。

補足事項

- コンピューター名やパスワードを設定したい場合は、「カスタムインストールサービス」を選択してください。

2.1.3 サービスの購入条件

導入支援サービスツールに設定項目を入力のうえ、MAGNIA シリーズ本体と同時に注文してください。

※　サーバー本体を購入した後に本サービスの適用はできません。

※　RAID 設定カスタマイズサービスは、サーバー本体1台につき、製造指示用ファイルを 1 部を提出してください。

2.2 カスタムインストールサービス

本サービスは、Windows をプレインストール出荷する際に選択できます。

2.2.1 サービス形番と価格

サービス名称	形番	希望小売価格
カスタムインストールサービス	ACR3775B	60,000 円

2.2.2 サービスの範囲（仕様）

本サービスで設定を指定できる項目は、構成支援ツールで設定した構成の範囲内です。
希望される設定を導入支援サービスツールに入力してください。
本サービスを適用可能なハードウェア構成は以下の通りです。

磁気ディスク装置数	構成支援ツールに入力した数量までの設定ができます。 詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
RAID コントローラー数	1（2 枚目以降は設定不可）
ホットスペア指定	可
RAID レベル	0,1,5,6,10,50,60 HDD 台数のほか、機種および RAID コントローラーの種類により構築可能な RAID レベルが異なります。 詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
OS セレクト I/J での インストール OS 選択	「OS セレクト I」または「OS セレクト J」を手配したときには、インストールする OS を選択することができます。
基本情報の設定	コンピューター名およびパスワードを指定することができます。 指定がないときは下記を設定しますので、据付後に変更してください。 コンピューター名：MAGNIA パスワード　　：!Mag2A
LAN アダプター	オンボード LAN または LOM カード LAN に加えて、オプション LAN カード上にある Port のうちの 4 つまでを拡張 LAN として設定することができます。

2.2.3 サービスの購入条件

導入支援サービスツールに設定項目を入力のうえ、MAGNIA シリーズ本体と同時に注文してください。

※ サーバー本体を購入した後に本サービスの適用はできません。

※ カスタムインストールサービスは、サーバー本体1台につき、製造指示用ファイルを 1 部を提出してください。

3 導入支援サービスツールの入力手順

3.1 構成支援ツールでの必須事項と導入支援サービスツールへの移行

導入支援サービスの「製造指示用ファイル」を作成するためには、下記の点を構成支援ツールへ事前に入力しておく必要があります。

「RAID 設定カスタマイズサービス」 「カスタムインストールサービス」	構成支援ツールに、提供するシステムの情報を入力します。 「設定サービス」の「RAID 設定カスタマイズサービス」または「カスタムインストールサービス」を選択します。
「OS セレクト」	「カスタムインストールサービス」は、構成支援ツールの「OS」で「OS セレクト」を手配しておく必要があります。 「OS セレクト」を手配しない場合や「Linux バンドルオプション」を手配した場合は、「RAID 設定カスタマイズサービス」のみ選択できます。
	「RAID 設定カスタマイズサービス」または「カスタムインストールサービス」を選択すると、「導入支援サービス 構成作成」ボタンがアクティブになります。アクティブになったボタンをクリックし、導入支援サービスツールへ移行します。
	「OS セレクト I」または「OS セレクト J」と「カスタムインストールサービス」を同時に手配したときには、インストールする OS を選択することができます。プルダウンメニューからインストールする OS とエディションを選択して「次へ(構成内容を入力)」ボタンをクリックします。

構成支援ツールの入力は、導入支援サービスなど発注品と異なる品番を指定しないこと

間違った品番を指定した場合、発注品と異なる内容の製造指示用ファイルが作成されます。

間違った製造指示用ファイルにて発注された場合、製造指示用ファイルの再提出の他、ご希望の納期に沿えないことがあります。あらかじめご承知ください。

補足事項

- 導入支援サービスツールは、構成支援ツールの情報を使って設定を行います。
  また、導入支援サービスツールは、設定することが可能な項目のみを表示します。
  設定ができない、項目が表示されない場合は、構成支援ツールの内容を確認してください。

3.2 発注情報等の入力

導入支援サービスツールには、「サービス仕様書」に記載された内容をご確認のうえ、ご記入ください。

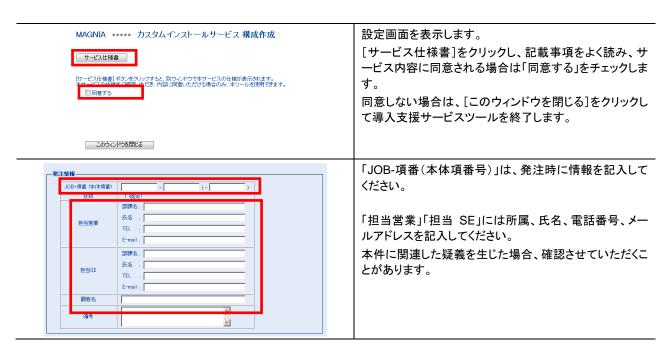
設定画面を表示します。

［サービス仕様書］をクリックし、記載事項をよく読み、サービス内容に同意される場合は「同意する」をチェックします。

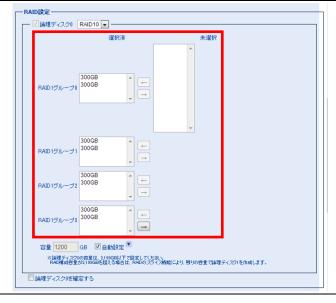
同意しない場合は、［このウィンドウを閉じる］をクリックして導入支援サービスツールを終了します。

「JOB-項番（本体項番号）」は、発注時に情報を記入してください。

「担当営業」「担当 SE」には所属、氏名、電話番号、メールアドレスを記入してください。

本件に関連した疑義を生じた場合、確認させていただくことがあります。

JOB-項番（本体項番）	発注時の情報を入力してください。
台数	導入支援サービスツール（製造指示用ファイル）で指定できるサーバー本体の数は「1 台」です。
担当営業	所属、氏名、電話番号、メールアドレスを入力してください。 ご署名いただきました場合、サービス仕様に同意したものといたします。 本件に関連した疑義を生じた場合、確認させていただくことがあります。
担当 SE	所属、氏名、電話番号、メールアドレスを入力してください。 ご署名いただきました場合、サービス仕様に同意したものといたします。 本件に関連した疑義を生じた場合、確認させていただくことがあります。
顧客名	最終ユーザ様のお名前を入力してください。 製造指示用ファイルのファイル名や JOB 番号などの照合に使用します。

3.3 RAID の構築

	構築する RAID タイプを選択します。 構築できる RAID タイプはサーバー本体、RAID コントローラーにより異なります。詳細についてはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
	詳細設定を行います。 「RAID10」を例に進めます（RAID1 でミラーリングした 4 組をストライピング（RAID0）する）。
	「未選択」でドライブを指定し、[←]をクリックするとドライブが「選択済」へ移動します。設定できるグループの「←」がアクティブになります。必要な数だけ繰り返します。 「選択済」のドライブを指定し、[→]をクリックするとドライブは「未選択」へ移動します。

「容量」は、任意の構成容量を設定する場合に「自動設定」のチェックを外し、任意の構成容量値を入力します。

任意の構成容量を設定しない場合は「自動設定」をチェックしてください。論理ディスクの容量制限については、内蔵ドライブ補足事項を参照してください。

設定が終わったら、「論理ディスク 0 を確定する」をチェックして情報を確定してください。

他の論理ディスクを作成する場合は、設定する論理ディスクをチェックし、「論理ディスク 0」で行った作業を繰り返してください。

3.4 ホットスペアの設定

ホットスペアを設定する場合は、「ホットスペア」をチェックします。

設定するホットスペアの種類の「GLB-HS」または「DED-HS」を選択します。

RAID 構築と同じ要領でディスクを「未選択」から「選択済」へ移動します。

設定が終わったら、「ホットスペアを確定する」をチェックして情報を確定してください。

GLB-HS	共用ホットスペア（Global Hotspare）の略です。 このホットスペアは 1 枚の RAID コントローラー全体のホットスペアとして機能します。
DED-HS	専用ホットスペア（Dedicated Hotspare）の略です。 このホットスペアは、特定の RAID グループ専用として機能します。

3.5 基本パーティションの設定

基本パーティション設定を行います。

任意の値を設定する場合は「自動設定」のチェックを外し、任意の値を入力してください。

論理ディスク 0 の全領域を割り当てる(未割当領域をなしにする)場合は「自動設定」のチェックを外し、「最大容量」をチェックしてください。

設定が終わったら、「基本パーティション設定を確定する」をチェックして情報を確定してください。

以降の項目は、「カスタムインストールサービス」の場合にのみ設定します。

3.6 追加パーティションの設定

追加パーティション設定をする場合は、「追加パーティション設定」をチェックします。
設定する論理ディスクを指定し、詳細設定を行います。
選択した論理ディスクの残り全領域を割り当てる(未割当領域をなしにする)場合は「残り全て」をチェックしてください。

追加パーティションは 4 つまで設定できます。入力が完了したら設定した論理ディスクの「確定」をチェックします。

論理ディスク	論理ディスク 0～3 を設定してください。
ドライブ文字	「C」ドライブ以外の「D」～「Z」を設定してください。 その他のドライブ（DVD 装置など）で使用している文字は設定できません。
パーティションサイズ	パーティションサイズを入力してください。 選択した論理ディスクの残り全領域を割り当てる(未割当領域をなしにする)場合は「残り全て」をチェックしてください。「残り全て」をチェックすると、残容量値を自動で入力します。
ファイルシステム	NTFS か FAT32 のどちらかを選択してください。
パーティションタイプ	プライマリーパーティション、拡張パーティションのどちらかを選択してください。 設定に関する注意事項については、内蔵ドライブ補足事項を参照してください。

3.7 追加ドライブ装置設定

追加ドライブの設定を行います。

ドライブ文字は、設定するドライブ文字を選択します。
他のドライブで使用している文字は設定できません。

設定が終わったら、「確定」をチェックして情報を確定してください。

ドライブ文字	「C」ドライブ以外の「D」～「Z」を設定してください。 追加パーティションで使用している文字は設定できません。

3.8 Windows の基本設定

	Windows 基本設定を行います。 「コンピューター名」などを変更する場合は、「自動設定」のチェックを外し、任意の文字を入力します。 文字数の制限と使用できない文字（記号等）があります。 設定が終わったら、「Windows 基本設定を確定する」をチェックして情報を確定してください。

コンピューター名	コンピューター名を入力します。 指定しない場合は「MAGNIA」が設定されます。 入力できる文字は半角英数字で 15 文字までです（大文字、小文字の区別はありません）。
Administrator パスワード	Administrator（管理者）のパスワードを設定します。 「自動設定」のパスワードは「!Mag2A」です。 「個別設定」する場合は「自動設定」のチェックを外し、パスワードを入力します。入力できる文字に制約があります。 ただし「administrator」は含みません（大文字小文字とも）。 ※ユーザーアカウント名またはフルネームに含まれる 3 文字以上連続する文字列は使用せず、長さ 6 文字以上で英大文字、英小文字、数字、記号（!,$,#,%など）のうち 3 種を含むように設定します。
ワークグループ	ワークグループ名を入力します。 指定しない場合は「WORKGROUP」が設定されます。 入力できる文字は半角大文字のみで 15 文字までです。 （注意）コンピューター名と同じにすることはできません。

3.9 LAN アダプター アドレス設定

	LAN アダプターの設定を行う場合は、設定する LAN をチェックします。 **LAN アダプターチーミングのメンバーに追加する LAN は、ここでは設定しないでください。**
	オンボード LAN1 を例に設定します。 必要な項目を設定してください。 設定が終わったら、「オンボード LAN1 を確定する」をチェックして情報を確定させてください。 オンボード LAN2 以降や拡張 LAN を設定するときは、オンボード LAN1 と同じ手順で設定してください。

オンボード LAN または LOM カード LAN 拡張 LAN	設定する LAN をチェックします。図はオンボード LAN1 を例にしていますが、他の LAN も同様です。 オンボード LAN または LOM カード LAN に加えてオプション LAN カード上にある 4 つまでの Port を拡張 LAN として設定することができます。オンボード LAN を搭載する機種と LOM カード LAN を搭載する機種とがあります。 例） オプション LAN カード（4ch）が 2 枚のとき、LAN は合わせて 8ch ですが、拡張 LAN として指定できるのは 8ch のうち 4ch のみです。
IPv4 アドレス設定	IPv4 アドレス設定を自動取得（DHCP）する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得する」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス（必須）」「サブネットマスク（必須）」「デフォルトゲートウェイ」を設定してください。 注意）IPv6 は設定できません。
DNS サーバーアドレス	DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を設定してください。 注意）IPv6 は設定できません。
WINS アドレスを設定	WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。

3.10　LAN アダプター　チーミングの設定

・Windows Server2008 R2

画面	説明
□ LANアダプター チーミング設定	LAN アダプターチーミング設定をする場合は、「LAN アダプター　チーミング設定」をチェックします。
☑ LANアダプター チーミング設定 チーム名称 Team0 チームタイプ ◉ SLB&FO (Smart Load Balancing and Failover) ○ SLB w/SM (Smart Load Balancing with Standby Member)	「チーム名称」を変更する場合は、「LAN アダプター　チーミング設定」をチェックし変更してください。 文字数の制限と使用できない文字(記号等)があります。 「チームタイプ」はどちらか一方を選択してください。
メンバーアダプター □ オンボードLAN1 □ オンボードLAN2 □ 拡張LAN1 □ 拡張LAN2	チームを設定します。選択してください。
☑ LiveLink (必須) リンクパケットの送信間隔 (1～60) 2 秒 検知リトライ回数 (1～10) 5 回	必須項目です。 必ず設定してください。
死活監視対象サーバー 対象サーバーのIPアドレス1 (必須) 対象サーバーのIPアドレス2 対象サーバーのIPアドレス3 対象サーバーのIPアドレス4	「対象サーバーの IP アドレス 1」は必須項目です。 必ず設定してください。 IP アドレス 2 以降は必要に応じて設定してください。
チームメンバー内アダプターのIPアドレス メンバー1 IPv4アドレス メンバー2 IPv4アドレス	必須項目です。 必ず設定してください。
IP設定 ◉ IPv4アドレスを自動的に取得する ○ 次のIPv4アドレスを使う IP アドレス サブネット マスク デフォルト ゲートウェイ	IPv4 アドレスを自動的に取得する場合は、「IPv4 を自動的に取得する」をチェックします。 IPv4 アドレスを指定する場合は、「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックし、アドレスを指定してください。
◉ DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する ○ 次のDNSサーバーのアドレスを使う 優先 DNS サーバー 代替 DNS サーバー	DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。 DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックし、アドレスを指定してください。
□ WINSアドレスを指定 優先 WINS サーバー 代替 WINS サーバー □ LANアダプター チーミング設定を確定する	WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックます。 アドレスを指定してください。
☑ WINSアドレスを指定 優先 WINS サーバー 代替 WINS サーバー ☑ LANアダプター チーミング設定を確定する	設定が終わったら、「LAN アダプター　チーミング設定を確定する」をチェックして情報を確定してください。

チーム名称	チーム名を入力します（必須）。 デフォルトのチーム名は「Team0」です。
チームタイプ	SLB&FO、SLB w/SM のいずれかをチェックします。 - SLB&FO: Smart Load Balancing and Failover： 通常時は Load Balance Member で通信し、Standby Member は待機します。 - SLB w/SM: Smart Load Balancing with Standby Member： 通常時も Standby Member が通信に使用されます。
メンバーアダプター	チームを組む LAN をチェックします。 注意）転送速度が異なる Port を選択することはできません。
LiveLink	必須項目です。デフォルトで設定されます。
リンクパケットの送信間隔	1～60 までの自然数を入力します。
検知リトライ回数	1～10 までの自然数を入力します。
死活監視対象サーバーの IP アドレス	Ping による死活監視対象の IP アドレスを入力します。 IP アドレス 1 は必須項目です。
メンバー1（or2） IPv4 Address	メンバー1 と 2 それぞれの IP アドレスを入力します。 必須項目です。
IPv4 のアドレス設定	IPv4 アドレス設定を自動取得（DHCP）する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得する」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス（必須）」「サブネットマスク（必須）」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意）IPv6 は設定できません。
DNS サーバーのアドレス設定	DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入力します。 注意）IPv6 は設定できません。
WINS アドレスを設定	WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。

・Windows Server2012, Windows Server2012 R2

LANアダプター チーミング設定 チーム名称 Team0	LAN アダプターチーミング設定をする場合は、「LAN アダプター チーミング設定」をチェックします。 文字数の制限と使用できない文字(記号等)があります。
メンバーアダプター オンボードLAN1 オンボードLAN2 拡張LAN1 拡張LAN2	チームを設定します。選択してください。
チーミング モード スイッチに依存しない 負荷分散モード アドレスのハッシュ スタンバイ アダプター なし(全てのアダプターがアクティブ)	必須項目です。 必ず設定してください。
IP設定 IPv4アドレスを自動的に取得する 次のIPv4アドレスを使う IP アドレス サブネット マスク デフォルト ゲートウェイ	IPv4 アドレスを自動的に取得する場合は、「IPv4 を自動的に取得する」をチェックします。 IPv4 アドレスを指定する場合は、「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックし、アドレスを指定してください。
DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する 次のDNSサーバーのアドレスを使う 優先 DNS サーバー 代替 DNS サーバー	DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。 DNS サーバーのアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックし、アドレスを指定してください。
WINSアドレスを指定 優先 WINS サーバー 代替 WINS サーバー LANアダプター チーミング設定を確定する	WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックます。 アドレスを指定してください。
WINSアドレスを指定 優先 WINS サーバー 代替 WINS サーバー LANアダプター チーミング設定を確定する	設定が終わったら、「LAN アダプター チーミング設定を確定する」をチェックして情報を確定してください。

チーム名称	チーム名を入力します（必須）。デフォルトのチーム名は「Team0」です。
メンバーアダプター	チームを組む LAN をチェックします。 注意）転送速度が異なる Port を選択することはできません。
チーミングモード	何れかを選択します。標準は「スイッチに依存しない」です。 -静的チーミング スイッチ依存モード。 あらかじめ、スイッチとコンピュータの接続を構成し、チームを構成するリンクを識別する必要があります。 -スイッチに依存しない スイッチ非依存モード。 チーム内のアダプターを別々のスイッチに接続可能（同じでも良い）です。 -LACP（Linl Aggregation Control Protocol） スイッチ依存モード。 LACP を使って動的にリンクの識別を行います。
負荷分散モード	何れかを選択します。Windows Server2012 での標準は「アドレスのハッシュ」、Windows Server2012 R2 での標準は「動的」です。 -アドレスのハッシュ パケットのコンポーネントに基づいてハッシュを作成し、そのハッシュ値が持つパケットを、使用可能なネットワークアダプタに割り当てます。 これにより、同じ TCP ストリームからの全てのパケットが、同じネットワークアダプターで保持されます。 通常は、ハッシュアルゴリズムのみで、使用可能なネットワークアダプター間の負荷分散が実現されます。 -Hyper-V ポート Hyper-V ポートが同じもので負荷分散されます。 -動的 パケットの中身は見ず、物理アダプターの負荷を見て、負荷が平等になるように送信アダプターを適宜変えていきます。この値は Windows Server2012 R2 でのみ設定可能です。
スタンバイアダプター	何れかを選択します。標準は、「なし（全てのアダプターがアクティブ）」です。 -なし（全てのアダプターがアクティブ） Fault Tolerance ではなく、Load Balancing となります。 -各 LAN ポート 物理アダプターを選択します。選択した方が、通常「スタンバイ」です。 Load Balancing ではなく、Fault Tolerance となります。
IPv4 のアドレス設定	IPv4 アドレス設定を自動取得（DHCP）する場合は「IPv4 アドレスを自動的に取得する」をチェックします。固定 IP の場合は「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックします。「次の IPv4 アドレスを使う」をチェックした場合は、「IP アドレス（必須）」「サブネットマスク（必須）」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。 注意）IPv6 は設定できません。
DNS サーバーのアドレス設定	DNS サーバーアドレス設定を自動取得する場合は、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックします。DNS サーバーアドレスを指定する場合は、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックします。「次の DNS サーバーのアドレスを使う」をチェックした場合は、「プライマリ DNS アドレス」「セカンダリ DNS アドレス」を入力します。 注意）IPv6 は設定できません。
WINS アドレスを設定	WINS アドレスを指定する場合は、「WINS アドレスを指定」をチェックし、アドレスを入力します。

3.11 サーバーの役割・機能

・Windows Server2008 R2

ネットワークサービス設定 □ Web サーバー (IIS) □ 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) □ ドメイン ネーム システム (DNS) □ Windows インターネット ネーム サービス (WINS)	ネットワークサービス設定を行います。 必要なサービスをチェックしてください。

・Windows Server2012, Windows Server2012 R2

サーバーの役割・機能 □ Web サーバー (IIS) □ DHCP サーバー □ DNS サーバー □ WINS サーバー □ Hyper-V ☑ .NET Framework 3.5 (Windows Server 2012でUniversal RAID ユーティリティ選択の場合、必須)	ネットワークサービス設定を行います。 必要なサービスをチェックしてください。

Web サーバー(IIS)	インターネットインフォメーションサービス(IIS)を使用する場合にチェックします。IIS の中の設定項目は固定です(インストーラーの規定値)。 ※ESMPRO では IIS は使用しません。
動的ホスト構成プロトコル(DHCP)	動的ホスト構成プロトコル(DHCP)を使用する場合にチェックします。
ドメインネームシステム(DNS)	ドメインネームシステム(DNS)を使用する場合にチェックします。
Windows インターネットネームサービス(WINS)	Windows インターネットネームサービス(WINS)を使用する場合にチェックします。

Hyper-V	Hyper-V を使用する場合にチェックします。
.NET Framework 3.5	Windows Server2012, Windows Server2012 R2 で Universal RAID ユーティリティを選択したときは必ずインストールされます。

3.12 バンドルソフトウェアの設定

・Windows Server2008 R2

バンドルソフトウェア設定 Universal RAID ユーティリティ スタンダードモード ：閲覧者権限 アドバンスドモード ：管理者権限, RAIDの操作が可能 ESMPRO/ServerAgent 装置情報収集ユーティリティ (必須) Broadcom BACS3 (必須)	「バンドルソフトウェア設定」を行います。 Universal RAID ユーティリティをインストールされることを推奨します。

・Windows Server2012, Windows Server2012 R2

	「バンドルソフトウェア設定」を行います。 Universal RAID ユーティリティをインストールされることを推奨します。

- オンボード RAID、RAID コントローラーをご使用のときは、RAID 管理ソフトウェア「Universal RAID ユーティリティ（Universal RAID Utility）」をインストールしてください。

Universal RAID ユーティリティ	Universal RAID ユーティリティをインストールされることを推奨します。 管理モード: Universal RAID ユーティリティのアクセス権限を設定します。 - スタンダードモード：閲覧者権限です。 - アドバンストモード：管理者権限です。RAID の操作ができます。
ESMPRO/SA (エージェント)	サーバー管理ソフトウェアの被管理サーバー側モジュールである ESMPRO/ServerAgent をインストールします。
装置情報収集ユーティリティ	障害ログを採取するために必要なツールです。Windows Server2008 R2 は必須でインストールします。
Broadcom BACS3	LAN アダプターユーティリティです。Windows Server2008 R2 は必須でインストールします。

3.13 構成設定入力の確認

設定した構成内容を確認したい場合は、[次へ（構成内容を確認]をクリックします。

ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してください。

導入支援サービスツールに入力された情報を元に、製造指示用ファイルの内容を表示します。

左図は「カスタムインストールサービス」の設定例を表示した場合です（1～3 の順で表示）。

確認が終わったら、目的に応じたボタンをクリックします。

ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してください。

3.14 構成設定入力の印刷（確認用）

[印刷]をクリックします。

目的に応じて「お客様署名欄あり」「発注情報あり」をチェックします。

ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してください。

印刷指定をします。

印刷するデバイスを選択し、[印刷(P)]をクリックします。

左図は「お客様署名欄あり」「発注情報あり」の両方をチェックした場合のサンプル。

どちらか一方をチェックしたときは、チェックした方のみが印刷されます。

3.15 製造指示用ファイルの作成

	[製造指示用ファイル出力]をクリックします。 ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してください。
	ファイルを保存します。 [保存(S)]をクリックします。
	ファイル名は下記に従って命名されます。ファイル形式は「xlsx」のみです。 営業形番_JOB_顧客名.xlsx JOB と顧客名の入力は、本書「発注情報の入力」を参照してください。
	[このウィンドウを閉じる]をクリックし、終了します。

	左図は出力した Excel ファイル(xlsx)のサンプルです(Top page のみ)。 このファイルが製造指示用ファイルです。 注文時に提出してください。

製造指示用ファイル　送付時のお願い

担当部署へ送付するメールの件名は下記に従ってください。

【導入支援設定シート送付】営業形番_JOB_ユーザ名_サーバー本体名称

例:【導入支援設定シート送付】ACR3774B_JOB _ユーザ名_C1300c

同じ構成の製造指示用ファイルを複数作成するとき

同じ構成の製造指示用ファイルを使って、複数の同じ構成の製造指示用ファイルを作成することができます。
編集したファイル名は自動では命名できません。命名ルールに従って変更してください。

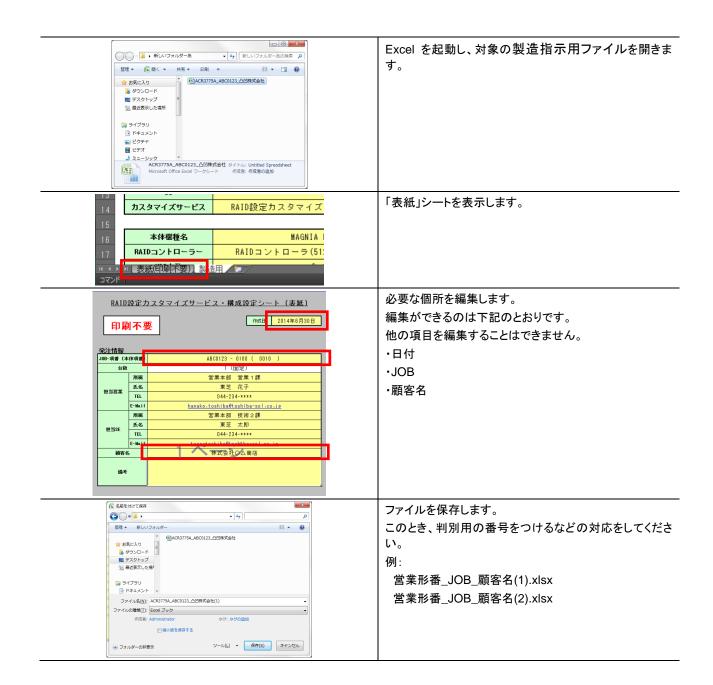
（注意）

・仕様の異なる製造指示用ファイルを使わないでください。設定内容の変更はできません。
・修正した内容に間違いがないことを必ず確認してください。

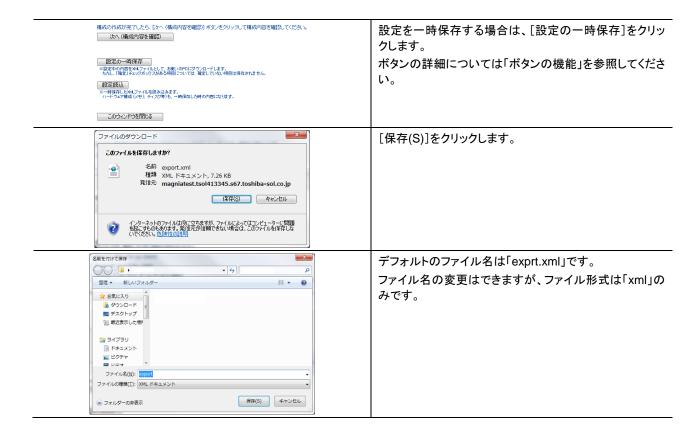
Excel を起動し、対象の製造指示用ファイルを開きます。

「表紙」シートを表示します。

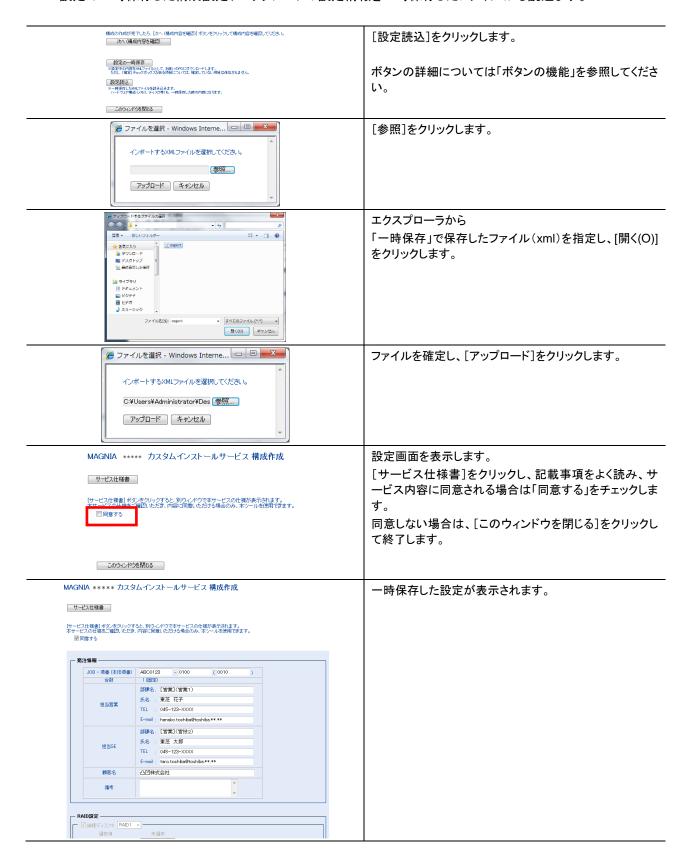
必要な個所を編集します。
編集ができるのは下記のとおりです。
他の項目を編集することはできません。
・日付
・JOB
・顧客名

ファイルを保存します。
このとき、判別用の番号をつけるなどの対応をしてください。
例：
営業形番_JOB_顧客名(1).xlsx
営業形番_JOB_顧客名(2).xlsx

3.16 設定の一時保存ファイルを作成する

構成設定チェックシートに入力した設定をファイルに一時保存します。
ここで作成するファイルは「製造指示用ファイル」ではありません。

画面	説明
	設定を一時保存する場合は、[設定の一時保存]をクリックします。 ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してください。
	[保存(S)]をクリックします。
	デフォルトのファイル名は「exprt.xml」です。 ファイル名の変更はできますが、ファイル形式は「xml」のみです。

3.17 設定の一時保存ファイルを読込む

設定の一時保存した構成設定チェックシートの設定情報を一時保存したファイルから読込ます。

画面	操作
	[設定読込]をクリックします。 ボタンの詳細については「ボタンの機能」を参照してください。
	[参照]をクリックします。
	エクスプローラから 「一時保存」で保存したファイル(xml)を指定し、[開く(O)]をクリックします。
	ファイルを確定し、[アップロード]をクリックします。
	設定画面を表示します。 [サービス仕様書]をクリックし、記載事項をよく読み、サービス内容に同意される場合は「同意する」をチェックします。 同意しない場合は、[このウィンドウを閉じる]をクリックして終了します。
	一時保存した設定が表示されます。

3.18 ボタンの機能について

・構成設定チェックシート画面のボタン

構成の作成が完了したら、[次へ（構成内容を確認)] ボタンをクリックして構成内容を確認してください。

[次へ（構成内容を確認）]

[設定の一時保存]

※設定中の内容をXMLファイルとして、お使いのPCにダウンロードします。
ただし、「確定」チェックボックスがある項目については、確定していない項目は保存されません。

[設定読込]

※一時保存したXMLファイルを読み込みます。
ハードウェア構成（メモリ、ディスク等）も、一時保存した時の内容になります。

[このウィンドウを閉じる]

ボタン	機能
次へ（構成内容を確認）	導入支援サービスツールに設定した内容を一覧に表示します。
設定の一時保存	導入支援サービスツールに設定した内容をファイル（xml）に一時保存します。 設定を一時保存したい場合に使用します。 **このファイルは、「製造指示用ファイル」ではありません。注意してください。**
設定読込	「設定の一時保存」で保存した Excel ファイル（xml）を呼び出します。 ハードウェア構成（メモリ、ディスクなど）は、一時保存したときの内容となります。
このウィンドウを閉じる	ウィンドウを閉じ、作業を終了します。

・導入支援サービスツール画面のボタン

[製造指示用ファイル出力] ボタンをクリックすると、TSOLへの製造指示書を出力します。
出力したファイルを、MAGNIA本体の発注と同時に担当部門へお送りください。

[製造指示用ファイル出力]

[印刷] ボタンをクリックすると、上記の構成内容を印刷します。
必要に応じて、お客様との内容確認などにご利用ください。

[印刷]

☐ お客様署名欄あり

☐ 発注情報あり ※「発注情報あり」のチェックを外した場合でも、JOB番号は印刷します。

[このウィンドウを閉じる]

ボタン	機能
製造指示用ファイル出力	導入支援サービスツールにて設定した内容を Excel ファイル（xlsx）を出力します。 出力した Excel ファイル（xlsx）が、製造指示用ファイルです。 **注文書と合わせて発注時に提出してください。**
印刷	導入支援サービスツールにて設定した内容を印刷します。 「お客様署名欄あり」をチェックすると、設定内容一覧の前に、お客様署名欄を印刷します。 「発注情報あり]をチェックすると、発注情報(担当営業、担当 SE、顧客名、備考)を印刷します。 お客様への確認などにお使いください。 ※両方チェックした場合、署名欄、発注情報、設定内容一覧の順で印刷されます。
このウィンドウを閉じる	ウィンドウを閉じ、作業を終了します。

4 ディスクデバイスベイ番号

サーバー本体のディスクデバイスベイ番号はご利用のサーバー本体により配列が異なります。
詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

リファレンス

補足事項全般

サーバー本体の詳細については、サーバー本体のシステム構成ガイドを参照して事前に確認してください。

- 導入支援サービスは、当社 IA サーバー MAGNIA シリーズに対して、本設定シートにて指定された、RAID 設定、および OS インストールをお客様に代わり実施する作業代行サービスです。
- 導入支援サービスは、MAGNIA シリーズ本体と同時に購入してください。
- 内蔵ドライブの混在時は、RAID コントローラーは必須です。必ず手配してください。
- 導入支援ツールをご利用の場合は、Internet Explore7.0 以上でのご使用を推奨いたします。
- 製造指示用ファイルは Excel2007 形式で作成しています。これ以前の Excel をお使いのときは、ファイルコンバータ(2007 Microsoft Office system 互換機能パック)をインストールするなどの対応を行ってください。
- 製造指示用ファイルは必ずサーバー本体の注文時に提出してください。製造指示用ファイルと注文書が揃っていない場合、ご希望の納期に沿えないことがあります。あらかじめご了承ください。
- 1 つの製造指示用ファイルを複数のサーバー本体で共有することはできません。製造指示用ファイルは、サーバー本体と一対で作成してください。
- 設定条件が揃っていない項目については、設定画面を表示しません。構成支援ツールの設定を確認・修正してください。
- 一時保存ファイルを作成した後で、構成支援ツールの内容を一部修正して作成した一時保存ファイルを読み込んでも、修正した内容は反映されません。一時保存ファイルは構成支援ツールの内容を変更・修正した都度に作成してください。
- 「設定の一時保存ファイル」は「製造指示用ファイル」ではありません。
- 構築できる RAID タイプについては、サーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。
- 標準でイベントログクリアをします。ストレージモデルは、OS ログクリアはしません。
- Windows 以外の OS には対応していません。
- Windows Server 2008 R2 では論理ディスク 0 に 100MB のシステムパーティションが作成されます。
- MAGNIA R1310d/T1540d/T1340d/C1300d において、Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 では、論理ディスク 0 に 350MB のシステムパーティションが作成されます。
- MAGNIA D3305b/R3520c/R3510c/R3320d/R3310d/T3350d において、Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 では、論理ディスク 0 に 300MB の回復パーティション, 260MB の EFI システムパーティションと 128MB のシステム予約済みパーティションが作成されます。なお、システム予約済みパーティションは、ファイルサービスと記憶域サービスの管理コンソールには表示されません。
- Windows Storage Server 2012 R2 では、論理ディスク 0 に 350MB のシステムパーティションが作成されます。また、ブートパーティションは 50GB となります。
- 動作環境温度 40℃で動作させる場合の注意事項については、サーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。その他の仕様についてもサーバー本体のシステム構成ガイドを参照ください。
- 増設用 HDD ケージをご使用の場合、他のドライブまたは内蔵バックアップ装置と排他接続の場合があります。詳しい仕様については、サーバー本体のシステム構成ガイドを参照してくだしさい。
- 外装箱に表示された RAID 構成は製造工場出荷時の構成です。製造工場出荷後に本サービスの作業を行うため、製造指示用ファイルにて指定された RAID 構成とは異なる場合があります。
- 導入支援サービスにて提供するサービス内容は当社が提供しているプラットフォームサービス(プラットフォームスタートアップサービスおよびサーバーインストールサービス)に全て含まれておりますので、プラットフォームサービスを発注する場合には導入支援サービスを発注する必要はありません。
- MAC アドレスの事前連絡は行いません。

- 2.5 型 HDD ケージ(リア)[TN8154-76T]を手配したときの注意事項

※ 2.5 型 HDD ケージ(リア)[TN8154-76T]は、R3320d 専用オプションです。詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

※ 2.5 型 HDD ケージ(リア)[TN8154-76T]のドライブとサーバー本体の正面側のドライブを混在させたRAID は構築できません。
2.5 型 HDD ケージ(リア)[TN8154-76T]のドライブは、論理ドライブ 0 に設定されます。
2.5 型 HDD ケージ(リア)[TN8154-76T]のドライブに構成できる RAID タイプは下記の通りです。

2 台の場合：RAID1 固定（仕様が異なるときは、それぞれ RAID0 固定です）
1 台の場合：RAID0 固定

※ 2.5 型 HDD ケージ(リア)[TN8154-76T]を実装した装置では、GLB-HS を選択できません。必ずDED-HS を選択してください。また、サーバー本体正面側の RAID グループに対するホットスペアディスクに 2.5 型 HDD ケージ(リア)[TN8154-76T]のドライブを使用すること、およびその反対はできません。

内蔵ドライブ補足事項

ハードディスクについて

- ハードディスクの容量表記は 1GB＝1000^3B、1TB=1000^4B 換算値です。 1GB＝1024^3B、1TB＝1024^4B 換算のものとは表記上同容量でも、 実容量は少なくなります。
- RAID コントローラーの初期値は Write Through です。システムにて性能を重視される場合は、バッテリーを増設した Write Back 運用をおすすめします（RAID コントローラーの設定については装置添付のマニュアルを参照してください）。

  －Write Through

  キャッシュメモリへのデータ書き込み時に、同期を取って HDD にデータ書き込みを行う方式。

  －Write Back

  キャッシュメモリへの書き込みが終了した時点でソフトウェアに書き込み完了通知を行い、RAID コントローラーは非同期にキャッシュ上のデータを HDD に書き込む方式。Write Through より一般的にアクセスが速くなるが、キャッシュ上のデータをバックアップするために UPS もしくはバッテリーを実装する必要がある。
- OS でのソフトウェア RAID 設定は行いません。
- 論理ドライブ（C:）はプライマリーパーティションとなります。
- パーティションサイズの最低値は、OS とサーバー本体に搭載されたメモリ容量により変わります。お客様が指定できる値は、OS とメモリ容量で決まる最低値以上かつ 1GB 単位です。パーティションサイズの最低値よりも小さい容量のディスクは指定できません。詳しくは本書の「ブートパーティションとメモリサイズ」を参照してください。
- パーティションのカスタマイズ設定で、論理ディスクの残り全領域を設定したいときは、ディスク容量（数値）を入力せずに、「最大容量」を指定してください。
- 導入支援サービスで作成できる論理ドライブ数は 4 つまでです。
- ドライブのマルチデッドによるシステム障害の発生を低減させる観点から、各ディスクグループのドライブ数は 8 台以下を目安とした RAID 構成をおすすめします。
- 大容量ドライブにて RAID を構築する場合、障害復旧に長時間のリビルドが必要です。その間は冗長性が失われますので、より信頼性を高めるためにもドライブ 2 台の障害に対応する RAID6 あるいは RAID60 でのご利用をおすすめします。
- どの RAID グループおよびホットスペアにも属さないディスクは、「無設定」として扱います。
- 異種ドライブの混在時にホットスペアディスクを定義する場合は、同一 RAID グループに異種ドライブが混在することを防ぐため、同一種類のドライブに対応する「専用ホットスペア（Dedicated Hot Spare）」に設定してください。「共用ホットスペア（Global Hot Spare）」は設定できません。
- 「OS セレクト I」または「OS セレクト J」を手配したときには、512B sector の内蔵ドライブを手配してください。

内蔵ドライブの混在条件について

- サーバー本体の仕様により混在可能なドライブの条件が異なります。事前にサーバー本体の構成ガイドを参照してください。
- SAS HDD と SATA HDD の混在や、回転数の異なる HDD の混在はサーバー本体の仕様上できません。
- 1 つの RAID グループ内は、同一形番のドライブで構成してください。
- 導入支援サービスは、1 枚の RAID コントローラー上の異なる RAID グループであれば、回転数が同じで容量の異なる HDD を設定することができます。

MAGNIA R1310d/T1540d/T1340d/C1300d での論理ディスク設定について

- 論理ディスクの構成容量が 2TB を超える場合の設定について
ブートパーティションの論理容量の最大値は 2TB(2199GB)です。RAID 構成容量が 2TB を超えるときは、RAID のスライス機能を利用して以下のように設定してください。
  －論理ディスク 0 の構成容量を 2TB または 2TB 以下に設定する。
  －論理ディスク 1 の構成容量は、[物理ディスク容量－論理ディスク 0 の構成容量]の値を設定する。
    論理ディスク 1 は「構成容量のみ」設定することができます
    論理ディスク 1 は 2TB を超えた容量も設定することができます。
- オンボード RAID では、RAID の容量(サイズ)が 2TB を超えるときの RAID10 は非対応です。
- ブートパーティション以外の論理ドライブの容量に制約はありません。
ただし、サーバー本体の仕様上、パーティション容量が 2TB 以下のときは MBR 形式、2TB を超えるときは GPT 形式を設定します。また GPT 形式に拡張パーティションは選択できません。プライマリーパーティションを選択してください。
- 同一論理ドライブ内で MBR 形式と GPT 形式の混在はできません。
- 論理ディスク 0 に追加設定できるプライマリパーティションは 1 つです。2 つ目以降は拡張パーティションとなります。論理ディスク 1,2,3 の同一論理ディスク内に設定できるプライマリパーティションは 3 つまでです。4 つ目は拡張パーティションとなります。また、拡張パーティションを設定した論理ディスクにパーティションを追加設定する場合は、拡張パーティションのみ設定できます。

MAGNIA D3305b/R3520c/R3510c/R3320d/R3310d/T3350d での論理ディスク設定について

《Windows Server2008 R2 を選択した場合》

- 論理ディスクの構成容量が 2TB を超える場合の設定について
ブートパーティションの論理容量の最大値は 2TB(2199GB)です。RAID 構成容量が 2TB を超えるときは、RAID のスライス機能を利用して以下のように設定してください。
  －論理ディスク 0 の構成容量を 2TB または 2TB 以下に設定する。
  －論理ディスク 1 の構成容量は、[物理ディスク容量－論理ディスク 0 の構成容量]の値を設定する。
    論理ディスク 1 は「構成容量のみ」設定することができます
    論理ディスク 1 は 2TB を超えた容量も設定することができます。
- ブートパーティション以外の論理ドライブの容量に制約はありません。
ただし、サーバー本体の仕様上、パーティション容量が 2TB 以下のときは MBR 形式、2TB を超えるときは GPT 形式を設定します。また GPT 形式に拡張パーティションは選択できません。プライマリーパーティションを選択してください。
- 同一論理ドライブ内で MBR 形式と GPT 形式の混在はできません。
- 論理ディスク 0 に追加設定できるプライマリパーティションは 1 つです。2 つ目以降は拡張パーティションとなります。論理ディスク 1,2,3 の同一論理ディスク内に設定できるプライマリパーティションは 3 つまでです。4 つ目は拡張パーティションとなります。また、拡張パーティションを設定した論理ディスクにパーティションを追加設定する場合は、拡張パーティションのみ設定できます。

《Windows Server2012 または Windows Server 2012 R2 を選択した場合》

- 論理ドライブの容量に制約はありません。パーティションは GPT 形式となります。なお、MBR 形式は選択できません。

●

ネットワークについて

詳細は、サーバー本体のシステム構成ガイドと各カードに添付のマニュアルを参照してください。

チーミング機能（Teaming 機能/Bonding 機能）

MAGNIA サーバーでは、動作 OS に応じたチーミング機能を有します。本機能により、複数のネットワークインターフェースを単一の仮想ネットワークインターフェースとして扱い、その仮想インターフェースにおいて回線二重化機能およびロードバランス機能を実現し、耐障害性の向上やネットワーク負荷分散を提供します。

Windows Server2008 R2 では BASP（Broadcom Advanced Server Program）を利用したチーミングを、Windows Server2012, Windows Server2012 R2 では OS によるチーミングをサポートします。サポートするネットワークインターフェースと OS の組み合わせについては、サーバー本体のシステム構成ガイドを参照してください。

補足事項:

- カスタムインストールサービスは、Windows 以外の OS でのチーミング設定はサービスしていません。
- カスタムインストールサービスで設定できるチーミングは 1 つです。
- チーミング構成するネットワークインターフェースは、同一のネットワークインターフェースでなければなりません。
- 1000BASE のチーミング、10GBASE のチーミングを 1 システム内で混在させることはできます。この場合は 1 システムあたり最大 4 チームまでとなります。
- 同一チーム内に異なる転送速度のアダプターを混在させることはできません。
- 各カードの詳細は、各カード添付のマニュアルを参照してください。
- サーバー本体 PCI スロットよりも PCI カードの動作性能のほうが高い場合は、サーバー本体 PCI スロット性能で動作します。
- オンボード LAN または LOM カード LAN および LAN カードのチーミング機能について、詳しくはサーバー本体のシステム構成ガイドおよび各カード添付のマニュアルを参照してください。

バンドルソフトウェアについて

- オンボード RAID、RAID コントローラーをご利用のときは、RAID 管理ソフトウェア「Universal RAID ユーティリティ（Universal RAID Utility）」をインストールしてください。
- 「ESMPRO/ServerAgent」では IPv6 機能は使用できません。

サービス仕様について

サービス仕様をよくお読みのうえ、本サービスをご利用ください。

RAID 設定カスタマイズサービス

- **サービス対象範囲**

(1) 本サービスは、当社 IA サーバー MAGNIA シリーズに対して、製造指示用ファイルにて指定された、RAID 設定をお客様に代わり実施する作業代行サービスです。

(2) 本サービスの対象は、RAID 構成を有する全モデルの構成です。なお、別途定める BTO に該当しない構成はお受けできません。本サービスは RAID セレクト、カスタムインストールサービスと同時にご注文できません。いずれか一つのご注文になります。

(3) お客様はご注文に先立ち、製造指示用ファイルに要求仕様を定義していただき、当社営業にハードウェアと同時に発注していただきます。

(4) 本サービスは、お客様の同意を得て実施されます。製造指示用ファイルのお客様サイン欄にサインを頂くことにより、お客様の同意が得られたものといたします。

(5) MAGNIA 本体に添付されておりますリカバリーCD やドライバーメディア等を開封させていただきます。また、インストールに必要なソフトウェアの使用許諾に同意いただくものとします。

(6) 指定された設定内容により、MAGNIA を構築し出荷いたします。設定内容は、製造指示用ファイルの項目に限らせていただきます。また、製造指示用ファイルの項目以外の設定は、対象 OS、およびプレインストールソフトウェアの既定値とさせていただきます。

(7) 本サービスと同時に OS セレクトをご注文いただいている場合には、RAID 設定のあとで、本体同梱のサーバー設定支援ソフトを用いて指定 OS をインストールして出荷いたします。その際、ツールや OS のデフォルト値を用います。なお、起動時の画面は OS セレクトにおけるミニセットアップではなく、通常の手動インストール時の起動画面となります。

(8) 設定結果は、製品に同梱し出荷します。

(9) 本サービスを適用した製品も標準製品と同様の保守サポートを受けられます。

- **注意事項**

(1) 東芝純正以外のオプション部品を使用しているハードウェアへのサービスは、お断りいたします。

(2) OS でのソフトウェア RAID 設定は行ないません。

(3) OS セレクトを同時にご注文いただいた場合、論理ドライブ(C:)はプライマリパーティションとなります。

(4) 本サービスは出荷時 1 回限りのサービスです。

(5) 磁気ディスク装置の故障などによりシステムのデータが失われた場合は、お客様ご自身で再構築していただく必要がございます。

(6) 搬入後、速やかに設定の確認をお願いいたします。
本サービスの実施にあたっては万全の注意を払っておりますが、万が一、ご指定の設定内容と異なる設定にて出荷された場合、出荷後一週間以内にご連絡いただいた場合に限り、工場にて正しい設定を行い再出荷いたします。
ただし、すでにお客様にて設定変更や追加インストールなどの作業を行なった範囲に関しては、当社は責任を負わないものといたします

(7) ハードウェア保守、および OS サポートは本サービスに含まれません。

(8) 設定不可能な指示事項を除いて、お客様の指定どおりの設定を行ないます。
なお、設定後の動作に関しては当社は一切の保証はいたしません。

(9) 設定不可能な指示事項が含まれていた場合、当該箇所の設定については対象 OS、およびプレインストールソフトウェアの既定値とさせていただきます。

(10)セキュリティ更新は行なっておりません。必要に応じ、セキュリティの更新を行なってください。

(11)本サービスの作業は、必要に応じて当社外に作業委託を行う場合がございます。そのため、識別情報(お客様サイン欄と発注担当殿ご記入欄)以外の部分に、お客様固有の情報もしくは個人情報を記載された場合、当社外の担当者に開示される場合があります。あらかじめご了承ください。

カスタムインストールサービス

● **サービス対象範囲**

(1) 本サービスは、当社 IA サーバー MAGNIA シリーズに対して、製造指示用ファイルにて指定された、RAID 設定、および OS インストールをお客様に代わり実施する作業代行サービスです。
(2) 本サービスの対象は、カスタムインストール、RAID 構成を有する全モデルで、かつ同時に OS セレクトオプションを指定された構成です。なお、別途定める BTO に該当しない構成はお受けできません。
(3) お客様はご注文に先立ち、製造指示用ファイルに要求仕様を定義していただき、当社営業にハードウェアと同時に発注していただきます。
(4) 本サービスは、お客様の同意を得て実施されます。製造指示用ファイルのお客様サイン欄にサインを頂くことにより、お客様の同意が得られたものといたします。
(5) MAGNIA 本体に添付されておりますリカバリーCD やドライバーメディア等を開封させていただきます。また、インストールに必要なソフトウェアの使用許諾に同意いただくものとします。
(6) 指定された設定内容により、MAGNIA を構築し、その後、本体同梱のサーバー設定支援ソフトを用いて OS をインストールして出荷いたします。設定内容は、製造指示用ファイルの項目に限らせていただきます。
(7) 製造指示用ファイルの項目以外の設定は、対象 OS、およびプレインストールソフトウェアの既定値とさせていただきます。なお、起動時の画面は OS セレクトにおけるミニセットアップ画面ではなく、通常の手動インストール時の起動画面となります。
(8) 設定結果は、製品に同梱し出荷します。
(9) 本サービスを適用した製品も標準製品と同様の保守サポートを受けられます。

● **注意事項**

(1) 東芝純正以外のオプション部品を使用しているハードウェアへのサービスは、お断りいたします。
(2) OS でのソフトウェア RAID 設定は行ないません。
(3) 論理ドライブ(C:)はプライマリパーティションとなります。
(4) 本サービスは出荷時 1 回限りのサービスです。
(5) 磁気ディスク装置の故障などによりシステムのデータが失われた場合は、お客様ご自身で再構築していただく必要がございます。
(6) 搬入後、速やかに設定の確認をお願いいたします。
本サービスの実施にあたっては万全の注意を払っておりますが、万が一、ご指定の設定内容と異なる設定にて出荷された場合、出荷後一週間以内にご連絡いただいた場合に限り、工場にて正しい設定を行い再出荷いたします。
ただし、すでにお客様にて設定変更や追加インストールなどの作業を行なった範囲に関しては、当社は責任を負わないものといたします。
なお、設定違いに付随する損失(事業利益の損失、事業の中断など)に関して当社は一切責任を負いません。
(7) ハードウェア保守、および OS サポートは本サービスに含まれません。
(8) 設定不可能な指示事項を除いて、お客様の指定どおりの設定を行ないます。
なお、設定後の動作に関しては当社は一切の保証はいたしません。
(9) 設定不可能な指示事項が含まれていた場合、当該箇所の設定については対象 OS、およびプレインストールソフトウェアの既定値とさせていただきます。
(10)セキュリティ更新は行なっておりません。必要に応じ、セキュリティの更新を行なってください。
(11)本サービスの作業は、必要に応じて当社外に作業委託を行う場合がございます。そのため、識別情報(お客様サイン欄と発注担当殿ご記入欄)以外の部分に、お客様固有の情報もしくは個人情報を記載された場合、当社外の担当者に開示される場合があります。あらかじめご了承ください。

免責事項

- 導入支援サービスの提供により、お客様または第三者に生じたあらゆる損害について、当社はその一切の責任を負わないものといたします。
- インストールされた OS 自体の不具合、お客様にて設定変更や追加インストール、カスタマイズなどの作業を行なった範囲に関しては、当社は責任を負わないものといたします。
- 設定不可能な指示事項を除いて、お客様の指定どおりの設定を行ないます。なお、設定後の動作に関して、当社は一切の責任を負わないものとします。
- 設定不可能な指示事項が含まれていた場合、当該箇所の設定については対象 OS、およびプレインストールソフトウェアの既定値とさせていただきます。
- 設定違いに付随する損失(事業利益の損失、事業の中断など)に関して当社は一切責任を負いません。
- インストールに必要なソフトウェアの使用許諾は、同意いただいたものとして作業を行います。あらかじめご了承ください。
- ハードウェアおよびソフトウェアの保守および OS の操作方法や設定方法などのサポートはいっさいございません。
- ハードウェアの据え付けは本サービスに含みません。
- 本サービスは出荷時 1 回限りのサービスです。磁気ディスク装置の故障などによりシステムのデータが失われた場合は、お客様自身で再構築していただく必要がございます。
- ソフトウェア製品には、かかるソフトウェア用の修正モジュール(サービスパックまたはセキュリティパッチなど)が適用されている場合がありますが、本装置に適用されているものより新しい修正モジュールが当該ソフトウェアの許諾者などからリリースされていることがあります。新しい修正モジュールについては、お客様自らのご判断と責任においてインストールまたはご使用ください。新しい修正モジュールの動作(インストールを含む)および同修正モジュールの適用によるアプリケーションの動作につき、当社は保証いたしません。新しい修正モジュールに起因する損害につき当社はいっさいの責任を負いかねます。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ESMPRO と Universal RAID Utility は日本電気株式会社の登録商標です。

掲載の会社名、製品名、サービス名は登録商標または商標として使用されている場合があります。また、記載のシステム名、製品名等には、必ずしも商標表示（ (R)、TM ）を付記していません。

本書について

- 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。